令和8年12月号　QoLe NEWS　NO.56

ナデシコ（撫子）　三村　千秋

－　こんなサポートがあれば　1　－

長く教員をしていると「あの子は今どうしているのか・・・」と、気にかかる卒業生がいます。そうした大人になった彼らが、「こんなサポートがあれば」というメッセージを2回に分けてお届けします。

今でこそ発達障害の知識を多くの方も知っていますが、彼らが小・中学校に通っていた30年～40年前には、正しい理解や支援は十分ではなく、発達障害者支援法や社会で働いて自立するための障害者自立支援法等も制定されていない時代でした。

一歩一歩、発達障害のある人たちが自立への取り組みをはじめ、そのことが社会で認知され暮らしやすい世の中になっていくことを期待したいものです。さて、中学生の頃のＡさんは少し恥ずかしがりやでしたが、とても努力家でした。

結婚して育児・家事・仕事・家族との付き合いにつまずき、病院を受診した結果、ＡＤＨＤと診断されました。その後、AさんはLD（算数）とASDという重複した発達障害であることも分かりました。

「あなたの努力不足ではありませんよ。」この主治医の一言に、生き直すチャンスをもらい「私は初めて見えない敵と戦う術を知り、前向きに生きようと思うようになった。」と述べてくれました。

学校生活で辛かったのは「忘れ物」。ある日、学校で「忘れ物班競争」が行われた時、その頃、「忘れ物の帝王」というニックネームもあり、班の友達からはひどいことも言われたようです。案の定、ビリ班に。自分を責めていたＡさんは、あの頃を振り返り、「例えば、親が寝る前にチェックしてくれたり、先生と親がチェックリストを作り連携してくれたり、さりげない支援があれば・・・」とも述べてくれました。

現在は、携帯のアラームや画面にメモも出ます。出かける少し前に時間設定しておけば「書類はもった？」と音声がでる時代です。今の子どもも、携帯やタブレットをうまく使って私のようなしんどい思いをしないですむサポートを活用して欲しいものだと伝えてくれました。

令和9年1月号ではAさんの30代以降のお話を続けていきます。来年も、宜しくお願いいたします。

個別面談

皆様がご心配されている子育て相談や就学相談など、クォーレでは対応が難しかった部分を三村先生にお願いし、個別相談をしていただけることになりました。

三村先生は、数々の実績とご経験をお持ちの方で、今もなお、広島大学客員教授などご多忙な毎日を送られている中、クォーレの療育に賛同してくださり、ご協力していただける運びとなりました。

Zoomでのオンライン面談も可能です。

https://airrsv.net/qole-hogosyamendanyoyaku/calendar

↑こちらから予約が可能です。

詳細は教室にお尋ねください。

お知らせ

Instagram・Facebookの更新が始まりました！

是非ご覧ください！！

クォーレのことをさらに詳しく、

ブログ随時更新中！

クォーレ　ブログ　検索